

米のコスト指標作成のための準備会合 結果概要

日時：令和7年11月5日（水）16:00～17:00

出席者からの主な発言

（生産・集荷団体）

- ・原価であるコスト指標の数字が独り歩きした場合、その水準で持続可能な取引ができるとの誤解を招く懸念がある。将来に向けた投資のための利益が必要であることも理解を求める必要。
- ・労働費については、持続性の観点からサラリーマン並の所得水準を考慮する必要があるのではないかな。
- ・生産者が減少し経営規模の拡大が進む中、一定の性能を有する機械取得のための投資なども反映できないかな。
- ・生産費統計をもとに、各生産資材等の物価について直近の数字で補正したらどうか。
- ・生産規模等の条件によりコスト水準が異なり全国平均値のみでは十分ではない可能性があるため、8割程度の経営体がカバーされるような水準での整理が必要ではないかな。
- ・中山間地や地域別等、カスタマイズを行う場合を想定し、事前にコスト指標と比較した換算表などの係数の用意を行う必要があるのではないかな。
- ・生産費にも関わるが、副産物収入が差し引かれていることから、割り返す際の数量は玄米製品数量とする必要がある。

（卸売団体）

- ・コスト指標はあくまで参考値であり、価格交渉におけるあるべき水準を示すものではないことをしっかりと伝えていくべき。

（小売団体）

- ・米単体など品目ごとにコストを算出することは、各社の販売方針との兼ね合いもあり、難しい面がある。
- ・業界データから、米単品ではないが日配品など部門別の利益率を反映するのが客観的である。
- ・消費者理解を醸成する上では、コストの積み上げ方が、他の品目とも整合的であることが重要ではないかな。
- ・消費者理解を念頭に置いた議論が大切であり、消費者団体も委員会に入れることも検討してよい。

（以上）